



150th

Bridging Generations
150 Years of Excellence in Women's Education
未来を生きる人たちのために。

日本語教員養成課程

○沿革と概要

1997 年に設置された日本語教員養成課程は、日本語を母語としない人を対象とした日本語教育に関わる人材の養成を目標にしています。その際、建学の理念である「キリスト教主義」「国際理解の精神」「リベラルアーツ教育」という教育の伝統「三つの柱」、ならびに本学で育む「七つの力」（愛と奉仕の精神、豊かな感受性、論理的思考力、コミュニケーション力、専門的知識と技能、創造力と企画力、主体的に学び続ける力）に沿って、良質な社会的常識・倫理観・品格を備えることを目指しています。背景の異なる学生がそれぞれの特性を活かしながら日本語教育について専門的に学べるように、本学の日本語教員養成課程は全ての学部の学生に開かれた課程として開設されています。

○受講資格・定員

先に述べたとおり、本課程は神戸女学院大学の全学部に開かれています。つまり、神戸女学院大学の学生であれば、だれでも受講することができます。

養成課程の定員は4学年で合計 80 名、実践研修の定員は 16 名となっており、多くの学生による受講が可能な体制となっています。

○課程修了要件

本課程は日本語教員に求められる必須の教育内容が修得できる養成機関として、日本語学と日本語教育学の基礎的内容を学修する入門科目群、専門的内容を幅広く学ぶ専門科目群でカリキュラムが構成されています。

より具体的には、必修科目として、日本語学、日本語教育学に関する科目を 13 科目（26 単位）配置しています。本課程は国語教職課程も同時に履修することができ、将来、国語教員を目指す学生が採用時に優遇措置を受けることもできます。

○課程授業の一例

1 年次前期の「日本語学入門（Ⅰ）」で「言語」に関する基礎、1 年次後期の「日本語教育学入門」で「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と教育」に関する基礎を学修します。

2 年次前期の「言語習得論Ⅰ」「日本語学総論（Ⅰ）」では「言語と社会」「言語と心理」「言語と教育」「言語」、2 年次後期の「日本語教授法（Ⅰ）」「日本語学総論（Ⅱ）」「日本語学特論」では、「社会・文化・地域」も含めた全体像を学修していきます。

その後、3 年次以降は、日本語、社会・文化・地域と日本語との関連、日本語教育の方法についての学びを広げ、1、2 年次の学びをさらに深化させていきます。本課程は、日本語と日本語教授法をはじめとした日本語教育に関する科目が充実している点が特色と言えます。

○教壇実習

神戸女学院大学は登録日本語教員養成機関および登録実践研究機関への申請を行う予定であり、実践研修（教壇実習）は養成課程設置科目の一つとなっています。

本学の実践研修（教壇実習）は大阪日本語教育センターで行う「学外実習」と神戸女学院大学で行う「学内実習」の二つがあり、受講生はどちらか一つを選択することができます。



学生による実習（学外実習）風景 1



学生による実習（学外実習）風景 2

○学習支援体制

本課程を担当するほぼ全ての教員が長年にわたる日本語教育の現場経験を有しており、授業の内外で教育現場に関する情報や実践的な指導とアドバイスを学生に提供することができます。

また、日本語学習者の経験を持つ教員も複数いるため、受講生たちには日本語学習者の視点から見た日本語の特徴や日本語教育の実態なども伝えることが可能となっています。



留学生との交流会

○課程修了と進路

課程修了後の就職等にむけては、日本語学校からの求人情報が寄せられる本学キャリアセンター、海外の協定校との窓口である国際交流センターなどと連携した支援体制を構築しています。過去 30 年間の中で、数多くの日本語教員を輩出しており、大学や日本語学校などで日本語教員として活躍している卒業生が多いことも魅力の一つと言えます。

○神戸女学院大学の養成課程について知るには
神戸女学院大学の日本語教員養成課程について、さらに詳しく知りたい方は、以下のサイトにアクセスしてください。

<https://www.kobe-c.ac.jp/learning/gp/>

また、日本語教員資格の詳細、修了生の状況などについては、以下のサイトからも情報が提供されています。

<https://i.kobe-c.ac.jp/course/>



問い合わせ先:

神戸女学院大学 教務課

kyomu@mail.kobe-c.ac.jp